

ご挨拶

新年おめでとうございます。

昨年11月から東京都の新規コロナ感染者が30名以下の日が続いていましたが、年末から急拡大し、既に10,000名を超え、近いうちに20,000名を超えとも予想されています。全国的にも感染者が増え、まん延防止等重点措置が多くの自治体に適用され、感染症の終息がいつになるか見通しが立ちません。小金井市の感染者もこのところ50名を超えています。大学では、まん延防止等重点措置に伴い、感染防止の観点から、措置期間中の課外活動を全て中止とし、月末には講義棟の各教室に非接触体温計と二酸化炭素濃度測定器を設置することになりました。

このような状況下では、話題が暗くなりがちですが、将来に向けての新しい試みが着実に進められています。今回は、その一つとして教育支援課程の取り組みを紹介してもらいま

た。大学のオンライン授業も当分は続けざるを得ない状況ですが、このような中からも新しい大学教育の在り方についてのヒントが得られてきていると思います。感染防止が最優先ですので、人と人との交流が基盤である本会活動も制限されていますが、辟雍会としての新しい活動を行いたく思っています。辟雍会通信も、この厳しい状況下で対面での会の開催が難しい時の支部活動の一助としてご活用していただくと幸いです。

早く皆様と対面でお会いできます日が来ますことを祈っています。1月20日が大寒でしたが、まだ寒い日が続きます。皆様、どうぞ十分ご自愛ください。

辟雍会会長 長谷川 正



学校教育と教育支援

東京学芸大学のE類教育支援課程は、全国の教員養成系大学・学部にも先駆けて初めて設置された、次世代の教育と社会を担う人材養成をめざす課程です。専攻は、生涯学習コース、カウンセリングコース、ソーシャルワークコース、多文化共生教育コース、情報教育コース、表現教育コース、生涯スポーツコースの7コース。さらに、生涯学習コースは、生涯学習サブコースと文化遺産教育サブコース、多文化共生教育コースは、地域研究サブコースと多言語多文化サブコースに分かれ、7コース・9サブコースで構成されています。教育支援課程という大きな枠の中で、広く各領域・分野の知識を学びつつ、それ

ぞれのコースの専門性を究めていく、いわば教育を支援するスペシャリストを目標としております。

E類教育支援課程は、創設当初はまだまだ認知されておらず、大学説明会（オープンキャンパス）に訪れる高校生や親御さんも、他の選修・専攻に来たついでに立ち寄りという感じでした。そのため、E類各コースの説明会を巡るスタンプラリーを企画したり、E類紹介パンフレットや紹介冊子を作成したりということは何年か続けました。そして、ここ数年ようやくE類の各コースを目当てに説明会に来てくださる方も増えてきておりますし、入学した学部学生の中にもE類を第1志望にしていたという声も多く聞かれました。

学校教育を教員として担っていく人材だけではなく、さまざまな形で教育そして子どもたちの学びを支援していく教育支援人材が、今にわかに注目を集めてきています。学校現場の教員の働き方も少しずつ見直されていく中で、ますます教育支援人材の需要は高まっていくことでしょう。

学校教育と教育支援は、これからの教育のあり方を考える上で重要なキーワードであり、学校と連携し協働して教育にたずさわる教育支援人材の育成は本学の為すべき重要な責務の一つであると考えております。

E類教育支援課程代表 木村守



News

大学周辺も変わってきています

昨年、西武国分寺線と多摩湖線の国分寺駅ホームにホームドアが設置されました。多摩湖線のホームには西武鉄道としては初の「軽量型ホームドア」が設置されています。JRのホームにはまだ設置されていませんが、東京圏在来線のホームドア設置計画が進められていますので、遠からず国分寺駅のJRホームにもホームドアが設置されるでしょう。大学正門通りの入口にあったセブンイレブンはだいぶ前になくなりましたが、本田交差点近くに新しいセブンイレブンとドラッグストアができ、連雀通りの少し先にはスーパーがオープンしました。正門通りは、老朽化した桜の木が伐採されただけでなく、正門近くの家が数軒の新しい建物に変わりましたので、大学へ来られると正門付近の景色が変わったと感じられるでしょう。



上：国分寺線、下：多摩湖線
西武鉄道 News Release より

学大スポーツ第151号発行 本会HPよりご覧いただけます。